花暦八笑人二編

下

ハ 13
3209
3

門へ13
3209
巻3

昭和十年
六月五日
寄贈

村口

花暦八笑人二編下之巻

瀧亭鯉丈作

夢だかうつゝとも泳じる春の夜ろ〻ど死も。偽人の常

暁をもたぶんだ。夜ホ日を継ぐ言。軒明ケたまのうち

ろう。光々る日ざしに有明ゝゝく。盆豆腐の麦まゝ

ひぐ〻。眼七八涙目をさまし。拉元のきせるゆてぷげち

たる畑草入をろ元の世尾ゝ煙の出るかとたばも呑。

吟のあぶまる程唾をゝ元ゝあ。ゆゝ人心付しあや一サアく、

あそのせ〳〵起さうく〳〵眼公一ぷく甘く下りし。
さうたう目がさめ極。眼公の早起斗りハえんきんメヨサアく
今日ハ大変の日ざえんきが起さうく〳〵まぐあんまうよ。
ろうア。ゆきまゝのあつぐだぞ。ヨイそこうゝ一服吸イ甘く
下ツ〳〵。どんも目が明ら極〳〵ナニうちやのて置てよ。
なうと明々めんざうたなまのモウちつとよを延〳〵たよ。
ヲウト。ゆさアくのつとよをのだきろ〳〵ナ〳〵手握ナ
りんそ猿猴ぎやアあるく〳〵。モウ是で存のよハ一ツまぐ

ちめくモウちつとトのうち暦番をさうそふねうまの尾ぐらぬけて
と鼻の先で居〳〵香七ぶひとの足ポッメリまちコロ〳〵
つぶせバ新年火だらけとるびつくりしてとび起る一アりゝゝちんざく。
ぶつかるく。ア眼の中へ何ら這入さコリヤアたまられんアく
りそく〳〵熟イ〳〵〳〵かんよく堪。こりやア熟えさうう
〳〵森耳ふ水でさくぐろくそつぶふ。ね新ふ火ぐさ
たまゝねく答ぐハゝ〳〵あやまちのまうゝ。今朝斗り
床だそるまぐようゝ。とさゝゝうく起起さぐ〳〵ひぐと
ぎやアねくてひぐのてをさるだまぐアバ公ら〳〵ちんざう今の

さるとだで目をさまし〜さのものをぶつて「呑の」
ぶつまよダチ「呑の」ア〜ぢそふぶ。びつくりちく虫がおどろひさる
種をさまして居る和ぢ「呑イヤ〜」卒ハぷぎく。けづら
ぢうめ人。今まで目きのてけせんぎふうつさら。
かきやァぐるんぷコレナゼあんまらづく紙ちと
「卒」アくあやまるさ〜。つぶとちるのでわね。蕪相ごョく
「呑」蕪相ごとちて ちるこ火鉢と間遠ちめく。イヤ
よく似ちん居る「呑」そばうつあんナ高紙いふうぢく

れ人ッ「呑」イヤ有りようちあとぶ吸付く業うとみてポイ火
うう結ケたのごョ。ぶうまでんわねうう。堪堪してちうう
「呑」ちそふう。そんちう了解してつうハそう。ウウ高ダうぶ
い。ちう〜高ハ分ッぶ影ハちうぷ熟イ「呑省」そのう人厚ク ちり
たう。面だうかとだう知まめ人「呑イヤ面の皮ぶ厚イとら人
石屋のヤシヤブシの「眼ヒ」ヤシヤブシトハちんざ「呑ツ」菊石屋の
「眼ヒ」フンあまうぷ〜ち名ぶ「呑ノウ」佐名ぶハナぷアノつうを見
紺屋ぶく来ハヤシヤブシのうハぶぜ。ハバ公うう九石もつよう

ろう。おまけに面白くまるでトジがみたいで。そんな物をみのお
うけで。鼻の穴からつと出りたまとうつくしい唇と鼻の
先とこと形がいて。なんでも犀角と角を清獅子で米を
よこすうつくしい面で面のいくたくさんてんぐてふさうし。
おまけにうまで引ことふるくらべて。なりくもわん。
そして其面ぶイヤつくおやわれ其息子がどふしたこの
のど呑イヤサその野鼻ぶつくゆも似合わんぬつ形で馬
鹿ふのろひやうヨ九でアバ公サノ横町の文字焼とい出

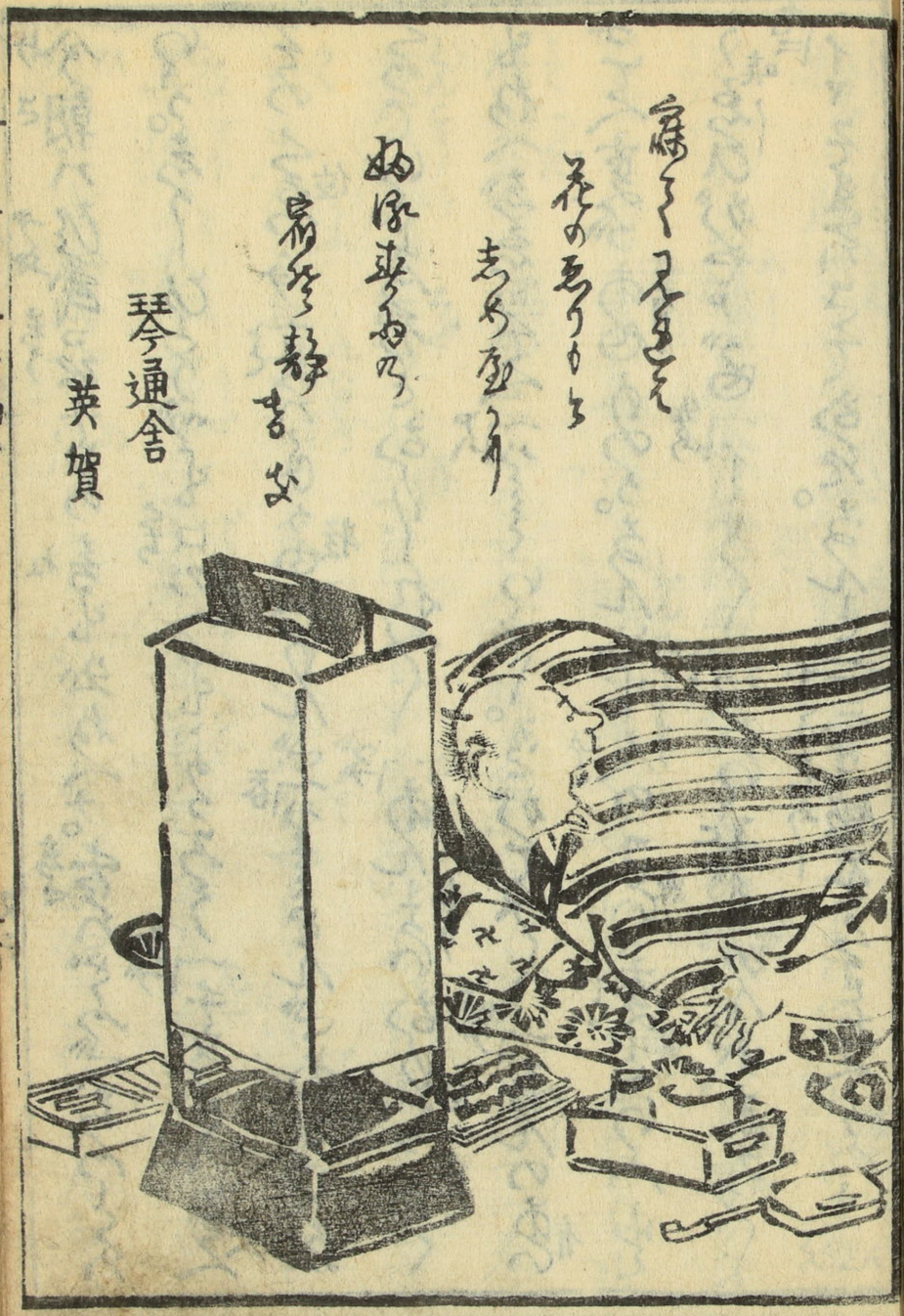
後の師匠ふひぐくのろけて。おまふ取持てくまろとこの
伝ぶろう。ぶぐもれが変ぶろう。行ンでらはくと呑込ま
ちまでも男ハこりのぶアバ公と遠ろて金満と云のハ
うろのひろうとよくちんで出ふのつくコレよ面ふ
あんまり安ぶぐ引たまとのあ〳〵まつい〳〵〳〵
のろ〳〵ムシやうくわ〳〵〳〵そのぶ変ぶやアわんい。呑込ろう
まこ一件ふあの〳〵まこ人世ぶ入しめ左う分く。おぶく仕て〳〵
ゆろうでふわ〳〵ろ一そのぐ決わ〳〵ぶも其ぶぶろう

字焼う所へ人づつとゝろ所へ行もきれいくらい
ぐらう。ちんぐろ間がころそてなるめのぐがそてつぐれわく人
其ぐるぐるお袋ぐ古狸又狐ぐ九尾の狐ぐりのと狐ぐら
いろちやつて盃ー一そまつぐ盃ー一そまつぐ行てどふーとこ
一そまつぐ盃めぐいて塩揚ぬ呑さんぶめんちせ人ちう
と汚人遠入くまつうまた。ゆうやとこあてびーとぶとおて
ぶう。あとこ先向とちろこうう。是ぞ天のあえと。駄
哦をたぐうう白て来こふぐどんぐ麦ケぐいてうう。彼つ

子の麦ぬいくとヨヤあのヤシヤブシとゆうの麦久。
こうこうへストいろくゆうとり笑ひくいうう。ぬ人だま
ぐとだくこうこうトのうたう。うこうしやアあまえうとあう
こうく。あつふきうて来こうう。あまこあふ又どふさる麦ぐ
とのふと。ちまえ人ちうぐふとあとパウト彰弘赤くちうう。
さまとぐのあまこも。新ぐかこうりくとちくきこ知をよで
揚ると。吹売をたくたつぐぶーさあと。びつくりちめく麦う。
腰ぐ立めく麦うコレ今まうまでのへ麦のこまのーうべぐぐう

め人ゆまつまでゆめあのさうをさせやァがつてゝいめ[ほ]い
イヤサゆめとハいふられねへ。あんまり残りをゝいろちハ
まつと宝とハいふまとねへ。義ろうふびんぶんありてつる
ぞ。ちゝ〜あんまりたちひのねへてゝ紙。馬鹿長く
ひつぱつてゝぞ。おのゝろくもねへてそさふサてふちてハ
あんとしく天竺ぢやァねへさまぶサ是程の日和ふ
ダァ浜武公ぐ吉紙喰ふといふもあゝ犯サノそりやァ
ちをを喰ぶぞ。今年ハ江ノ島ふ周帳ぐみるめヲ〜ぶふ

つぶく大ぐとふぐ人をさるとゝ[元二]コレてハぐふゝて汁[四]
ゆでもゆつくとゆ人。朝ッたゝるゝ[元二]ゝる鹿どもぐぞ
隠汁人這入ッとゝる〜。金肝ふかゝるゝめゝ[元二]ゝてゝるぐん
ゆちゝ人。イヤハヤどのつも〜、家敷まのゝるゝの雲ぐ。
夜昼紙背夏〜紀人ッこぐすのハ。ち荒ぐ蒲鉾ふ
屋ふゝるゝぶァ[呑七寿ちゝの]こゝのゝるゝて[呑]菱下坂二タツ胴パタリ[元二]ぶふ
ちゝくそふ味くゝふ人ねへ。浮ぐ加ぐ笑紙の盤ふ坂でゝて
いぶァ。サァ〜ゝんを一ッゆふ草ぐ〜。ヤレ〜ふびんや


琴通舎
英賀

今朝ハ弐貳チウの雲も出ねへナ。香ハごぐぐぐぐぐぐ
いっぷ。ぐーひうづも口のへるもうろうろ「チウ〳〵」と
そのくらゐナ変ハひうめんめんざ「香ハ」ぐぐぐぐぐぐんざあげけ
くらいっぷ。ぐぐぐとおりれく〳〵「ぐ」あんまいおのちよく
もねへぐらゐてへ「ぐ」〳〵〳〵〳〵。みがてく「ぐ」「あんの」
がてへ変ぐあるものぐぐんでも人のこいく変とりへを
うるひがやァぐ「イサく」坊ハてよダョかんれあろく
「イヤそまへさてあた。ぐんと二三月級をこうとねへよう
持ぐが腰ぬーしれそ弱ハ雑水とあるへ人でハ級へこうろう
く。ぐぐれ級とりふのの氣ふへねへぐう。お冷がどんと者ぐら
てうどいて「香」ぐぐぐぐぐく。「眼」公早くやらぐーぐらーぐ
弦ぐ弱ぐ。あまれとすへさもくくらうぐまぐ。押へ者。
呑公ぐて下ぐーぐ「呑」へぐぐちハ度ぐぐぐ平ぐ兵兎も
角も今日ハ大切ナ弟ぐ。アバ公やらぐーぐ「ぐ方迎」
其通ぐ。たく唄さて敵兼弟でどぐぐ「左二」ぐぐぐ
火ぐたぐぐて居ぐぐ。いぐるめん者やァねへそんぐ

客ぐやうがいく。ようろうく。孤ぐらくべエ。そんな一ぱい飯
いく。きゝ人り勝ひとり負れ話ぐ。ぶるゝ者を三助と云ふ。
ちう〜ひとりでいだきゝふ。あんまり可愛そうへだ
ろう。三助役ぐ二人りこ甘へこふ「こうく〜サア三ッおチだこ
「夫きゝこゝやう〜。ヲヤ左二さんナゼこんなくみる「左二」ゑんのあれ
ハせぢこといふ。ゆ家の主ざめを「何く〜あるでも
内疳でも。用捨ねく。ひう出ろく「へこうげまの衣
ゑるぢやァあるめく「眼ヒあんまりあるでくと内びうを
きるゝと居りふ居てゆふねくうくイ〜「香サアゑとこく
「左二」ちゝけねくゆっらざまァ。ようく〜サアこゝ。アヨイく
ヨレヤサ。まてく〜ヤアく。卒八眼七が鉄炮であゝこ
のふぢ名ゑ。ヤ奇ぬく「ばごくら苦労なぐうふう
メ六助どん早く頼ヨ「サアく〜こちゝお風呂こて
こうふナア呑公「こんあがいろくゝうちこ甘へてゐる
きゝ人ハこゝく来くゝ座敷あげろョへいて知ねぐナ見ゝく
ちこぜうふゆて楊枝をこうえ汲「眼ヒいまく〜いめゑこナア「卒コレ

ゑんさろ〜家もあげざるかの四きやアぐるこト小さたらぐ
卒八人家をあげてそのぶ眼七 ふろ人きあすめ人れ人はまぐぞぞ。ヅヅ
ところ眼七八ろつのをこたする
ぐまぐまぐ
ぐまぐまぐぞそのぶぐ煩ッて斗り居るハ。ちんと味噌をさとる
もめんぐうぐざうろう。碧油ぐ水ぐぞうとのとちうそう。
菜もおーあろ〜 卒なまきまうう 卒 ぐあうさうきそていめん
ぐそまとものうのとりのふあつ。ろうせこれ人斗りこ 卒 ぐ
わ人そまのぐ。おろ〜ぐ 盤前 どろうろうくぐろ〜。まろぐぐちの
ふ 卒 ふ 卒 ぐろろろ〜ノ 卒 ドレのふちろとたんとでもの雑水ハ

うまとものぐいぐ。ヅツトよろろふくく〜 卒 イヤモウ式まろ死ゆんハ
あのまろそ又いぐりだ〜さん。ぐ式又火吹竹ハちんぐろう。
さんぐろう役ふたれ人大あ柿と遠く。吹竹の尻の穴
ハ。ろうたけちいさのぐいくめんぐぞういぐろぞく 卒 菜
をきろぐエ。ろりやア洗ッて有るつよく〜。アッア ふまぐ
さげろう水仕業。ア 濁 ぐ ぐ ぐ

入まこくもよろこぶ〳〵ト紙をあちこちあべふこ紙
「眼七」「卒」公山くまこなるゆうさこぐよろこうこ〳〵こよろこうく
とうめ〳〵をこくこ紙まこう〳〵
アワレ〳〵水ッ鼻ガアくあぶねく〳〵ヨット眼七ハさこうこあ
ぐもこうふあこうこ〳〵ホタリく
「卒」と二タこあわど「卒」ヤア大へん〳〵変こうこ〳〵をあつこぜ「眼七」あれも
こうこ〳〵ケまこど間よ合ハあるんご「卒」さこらぎどとゆのカく
とこぐ拵「眼」こてこべいこふ「眼」そふあまこべよろこさが其へ形ふ及と
でへぐこうゆ尚素邪ふとハらこねくめんご。おこもちぶこあう
ゆこるの方ハ素人ごゆ〳〵ぐふこるあう仕方ガねく見ぬ変と

清〳〵ごア折角毎人ク。これ見元の変ハ拵らこもあ変人
「あんまりいこもこるこ変ゆねく〳〵ぜ。そ〳〵てこあとこあく清
〳〵ふゆ世こうこうこ。ここハごのしあ〳〵ゆもここゆみちけく
ね人「眼」「ナニこの元で狐の方をくこうこ〳〵ナ。そのこうこと
ごい「ここごいこう中ガ紙こう知まるものこう「眼七」ここゆこさう
こう。こハいく洗ハまこうこるごこかこまこて〳〵こうこふあう
あガ元ゆこて〳〵けこど「卒」ゲエイく〳〵あふァこうこゆくごく
ゲツく「眼七」そんねくふ。ここるガこまこうこ変ァねく。

母「さて我人男ご「だるる支とらん。形毋しいの形毋ろく
我人のとい弦じゃ我人。出ぐきらうのごう。仕こ方が
我人。毛ちの動じゃ毛ちゃろめく「眼七そそてゆ吸を
こんな入て仕まつさう。薬湯といろわんぜ「ごく
もるりのが仕方が我人。ひしこ死わばさりて そりゃ毛ちい
我人「眼七そこ下ハくうもどいひるもど。こんるめい沙法
さよ「辛えまさるよ。ちりゃいが眼玄紙をいち枝
ぐう〜。あり厚ち人沖毛ちがある「眼七ちを義ーごくるく犬

だちのひたごく〜ダ「辛ヲウト有馬山ト「眼七像くうけうそそ
ふみ拝ゆくるる「辛くいろてゆそそう
をわらひ犬ぐう「ヨヤ毛ちのうちちのへ毛地ろうひごの眼公
ちろろとかくそうぐう〜「眼七ヨイ狂ふるるるしだくる
「辛猪をおろ〜たの何ご又中をのぞいているノトのようが「眼七
狂へ毛を人ろ用毛を「眼七ヨてコレサ毛ふ水の素ろ這入ろへ「辛八ハ
ゆの素を鶏の中へポり
眼七ろ狂ろり古きさ毛紙とうのふを鶏を「眼七ヤ人く〜もウく〜ろのうる
引ゆ「同〜ちごの中へちろうごうを義ろ
く〜「辛ちんの蓋を取りて「眼七ろ出てふろうい。中を見て
居ごとろてちごまろわんちろごのゆ眼ぐく法ろ紙

おめくちさ。ぞんせこうちゃ。こうねんきぐうこう
へこうねんが「隈そまぐ」とうて。こうひめくこえ湯ゆを出さに
京も祇園一こうちゃくひめのこえ。ぎうねんこあ
だとこうこうこう

ねるのよ。そんなのちどんの義方が出来るものゝ歯あるもの
もつて。別のもの石のゐるものだ有るめんく。茶金と義
方火鉄焚ばいのよイヤモウいのうえるトシチキざつ丈ふ
まき其本ゝまで一下処さんいづつて半みてよく〳〵林さ
りのとゝいつきちつとまるこしぢきる涌ト殺をきき
「いやたやぶ」まつるものざが。ふそのぐ〳〵メゼそん
ぐがいねえ「アノコトくちまつてみるこのまこい
かさまつて結婚ざらう。マアやのたけよんまこちち

まあ〳〵湯もぬるもざらう「そん〳〵さあそこいつれん
やうぶアノこまつでんぶんなこと丈よんをえること。蓋
ところやゝ。水雑ゐしやつさん。出来く〳〵「そのい
あつみ氣どつさ丈ぬ〳〵中人ゐを入まさ「エ。
中へつエ。茶とそ辛八とゐ丈あの世茶半まだつけ「そんな
マアなまもものやうるりのサ「ゑんのとこ拍なるのが
ちく〳〵ひやく〳〵眼公公四ち出ぢる人。そ七ゑんこふぶん
でんおひりしやもく〳〵「アゝぬく御注拍ごらんく

「あるヒ。ひとゝ（人）ひとゝてあつ（熱）さいものゝひと（少）ゝ雖ひざ（膝）「ぞ（ぞ）」
ざ。こんながうもくらゝゝ（ゲエイ）ゝゝ（ゝ）ぢんいまゝざ。
ゲッく（左ニ）「何ざ。人（ひと）のあと（の）を吟（ぎん）そぶで（ゲイく）ト（と）ふさ（さ）
ね人（ひと）男ざ（ざ）「へゝゲイぐゝねっきゝるこゝんよくぞ（ぞ）ふ（ふ）を
く吟（ぎん）ぞ（左ニ）「ぞ（ぞ）ふまいが（何）で（で）きゝる人（ひと）ものう（ものう）「眼（がん）も（も）辛（そう）
ゝ（ゝ）ものゝ（ものゝ）ぜこゝうゝ（ゝ）人（ひと）「イヤ（いや）大（だい）きゝひざ。人（ひと）の吟（ぎん）ものと
ゝ（ゝ）えゝものゝ（ものゝ）がうゝい（ゝ）「ナゼ（なぜ）又（また）ものゝ（ものゝ）ゝ（ゝ）きゝるがるざ
ろう。あゝ（ゝ）ひゝゥ（ア）「ものゝ（ものゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ぞゝ（ゝ）ぞゝ（ゝ）ぞ

洗ッさまをたゝ〳〵こんざうゝ。実ふきさまねへ
きさまのよ「ヤアく」大くんを高紙ひぶりでうぬ
らが喰ひねへのまく〳〵ひやつぶきさまねへぞゲツく
「ゲイ」ひきくわど鉢ぶ。ゲエイ〳〵ペツく「ちの種ぶり
で。塩ぶちとかゝくつきく。るたる白ひがとろとろさ
ゲツく「ハくそのの匂ひを眼ふ鼻紙の匂ひぶまを
ぶ〳〵だうゝ生人笠ぶ「そくまろうみまを入
ろ。そりやア又ぶ〳〵て入まを。イヤく笑ふく〳〵ぶく

ちんもいつこぶふわくまろ。笑ッぶきくわど。ゲツ
鉢ぶ。ゲエイ〳〵ペツく「ちの種ぶり
で。塩ぶちとかゝくつきく。るたる白ひがとろとろさ
ゲツく「ハくそのの匂ひを眼ふ鼻紙の匂ひぶまを
ぶ〳〵だうゝ生人笠ぶ「そくまろうみまを入
ろ。そりやア又ぶ〳〵て入まを。イヤく笑ふく〳〵ぶく
ちんもいつこぶふわくまろ。笑ッぶきくわど。ゲツ
鉢ぶ。ゲエイ〳〵ペツく「ちの種ぶり
で。塩ぶちとかゝくつきく。るたる白ひがとろとろさ
ゲツく「ハくそのの匂ひを眼ふ鼻紙の匂ひぶまを
ぶ〳〵だうゝ生人笠ぶ「そくまろうみまを入
ろ。そりやア又ぶ〳〵て入まを。イヤく笑ふく〳〵ぶく

琴通舎・英賀

東雲の
鳥と鶴の
さゝゝ川ゆゝ
明ぬの
告まゝる

山裕紙屋のおたきさんの処へ行てのいく。引接様のあん
たのをよく〳〵あ〳〵て〳〵形まろ〳〵。そこと私めたぐ
まくらくつまくらねんうつ。ちぐるさんを形ぐ連てく
行の。今日はあまも候成ゆ弾ケそろぐけまど。二挺ぐ
と出い〳〵序ぐ一瓜姫の方ハたひぐひ夕アきまろたかう。
のん我ぐ方へいくてぽちやく少けよの〳〵バ公トの
立廻りハぐぐろの〳〵イヤ〳〵こまろもちゐ〳〵よろ
ろう。ちまの中ぐ三旦りらの京ぐめってハ見物

ゆかんが生のくろろろ〳〵の夕テガの芸ひよろろ
てを。人がるの。おひがむぐゆるナ。ぐまく〳〵ひイ。ひぐを
ろくも大いの死ぐ一八ぐくちぐねく〳〵。サアく私
寅りのの早く出ねんの眼公ちぐるさんを形んで
ぐまろ〳〵トそまくゆの死をさぐあやめってを
大沼の名ゆ三死その中ゆ。月雪の花の絶景を兼
備へる隅田川実ゆや振の乾月。男人達人ハ
ゆさう。祝の代ろ仕ぐる。伊勢屋の真玉出ぐるの

内田の女房り〜この樣。客を送るとて傘のせんさく。
加村兒男も操女も。影ふうるゝ其人ふ。まことうう
さまでて出る人〜。影はどひさる陽面堤前を歩りの
人見ゝ。樣の従来ゝ。彼の僕の人〜なる。
て期〜たるゝ分ケの要り。アバ大帛ハ侍のあらん。
香七郎助太人ハ後見の少めくそあとぶらつい
て香「眉」ヨイ〜香公子をろし。ろくしいく多奥
樣ハひろひざナ「香」ろんふあるりやア奇麗ざイ大相ナ

女中だまの奥樣ハ日傘でかとろくさろたり見せ
ハ人ハ。ろだつぢのめざが。ぢ。香心ろぢちんと見ずく
ひさまびいナ「眼」取養くいるのハ。ぢまも一下粒ろぢ。
アッア。アて。ちひのんざ。ろるわど人ハ武士なぢ。城ハ
いやぢれ。とい〜川柳がある。ぢ。女ハ武家方乃
ちぢ。ぢ〜ハ。さろたりちていく「香」そのろたりとい〜
ちぢ。ちろたりころ。ちがさろたり。ちれ人ろろのるぢョ。
奥ハ中といふと。伯ろふ自由らしひろら。かく別ちんころが

のうめぐ。アぞまもく中間ぐ。ぞる涙ぶら〜ひ代。ぬ
ぐ眼ぞ〜ぞよ山ぞのてけうぐ。さぞいだ〜の出ぞるぞ。
サアくあとの方ハチトむづうひぜ。こりやァ実こみホ
笑と換をさうぜ人たのぶ落ぐ足くく来ぞョヤ〜
あまく〜ト尾ぞ紙。あのぐ〜ぞるひお屠のトいふ形ぞ
香
一ぞミアわく右ト左りで二人ぐ出ふといふ人形ぞ。
ハアア秋美ぐか小休と足くるぞ人イヤそまこそうトアバ
公ハぐぐちへけぞ眼今ぞめぐりの栗屋ホ足くぞ孫呂

まハどこをうろつ仕駄ぐろう。ぜんてハらを一ッ
取ホこよあとりつぞ小先へ来く来ぞ。香へ何サのろ
公もあの形りで尾くぐ〜れるをせ月なぐつくよ。
眼へそあぞ洲茅の通りうう来遠よさまもつう
かろうナア。香へイヤ今日の催ハき月とちねるぞろう。
のろまめへうまくぐ〜ョ。眼へをふよアア、ぞ〜きち
ぐへのうもぐよ月ほどつ〜ハいぜ。おんまり色氣うねへ
ナア。香へどもしてもねへ月ろ来ぐろうゆけぞ。イヤ

ちんよ此方へ来てへあん来るぞろう。奥様は
ひるれてツイ。うろく来て。眼へマダくアイ。もおしろ
いくろ奥様あいまるるもろう。吞へ何の見て
ガギヤマンの船だろくしたつくアバ公と一ツ
でも吞う。ト又こわゞりへ立もどり吞へイヤ見ハアバ公進
ち女ぞろく。アバ〳〵公吞七ろハア出同眼も同乃おめた
コリヤアア若達も花見ろ。出目へイ左様でござり
ます。あまさ様もお花見いろッ来ありまさう。

ぬ様此山へ風さへそろく出しまもろ。
左様でござりまし。アバ〳〵コリヤまろく武士を嘲
ろう来ろた。吞へイエどゝいさしまく武士ハてう
ろうゆへまりません。どゝろいろもと禅宗の坊主
ゆどがなるそゝでござりまし。勿論青軍ハ
時ろ知ゆうろへまひまさそぞ。出へ
只今でも。あまさがおくぶり拝ばしまもと。
ろく浪くよハなりまし。老角労の字が付ろる。

おがうしと醫者もヤボ。アバヘイヤこの用らい
ぢうく。きたん。もちろん。きたきたの。ものを。捨あ〜ん。ト刀へそりとおち
きたくの。ものを。ものを。少捨あ〜ん。ト刀へそりとおち
弟屋の。ものくいたきよ。婆へマアく。ごまうけ。出了簡なきの。ものく
おどろ。兄アバ。ものを。神へ。
下さりまし。コレ。ものへ。方。ものとんざ。人ざ。お侍。ものを
向ってぶ〜つけ。ものを。ものいハッ。ものる。ものん。人へ。婆へ。
亜くれね。ものく。ものく。ものっぜん。吾へ。ものっぜん。ものア
ものんざ。ものだ。ものへ。お寝。ものざ。婆へイン。ものを。ものか
お寝。ものいり。ものね。ものの。ものの。邪。ものア。ものく。ものっ

ちへ。ものの。せく。ト。ものの。方へ。ものつき出ス。音へ。ものく。コレサ。ものさん。
とものる。ものハ。ものへ。ものんざよ〜。ものいかげん。ものお
ものさ。ものア。ものバ。ものん。ものうろ。ものく。ものハ。ものへ。ものと。ものを。
婆へ。ものを。ものの。ものん。ものの。ものを。ものと。ものを。ものん。
ものの。ものを。ものの。ものを。ものの。ものを。ものの。ものを。ものの。
向ってく。ものアバ。ものん。ものと。ものの。ものた。ものの。ものの。
けんものが。ものく。ものの。ものて。ものの。ものの。ものの。
ものめ。ものく。ト。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。

たアさんやおやうざんごョ。おれごとこの婆「イヤ
ほとゝきやまで。ゑんよもちろ家ぐらげんのんごゝきん
行て休ませ　年「ちりやぐものもうねへぞ。コレ
アバ公いっげんよ解ねへろ。いつまでやきん化居る
のゞ困りきるハナ。アバ「コリヤく婆ァかまよるく。あ人
とゝかくどもやまと「モシく旦那さん
云十ゝおりまも婆ァが。見るゝと合せて物まびぐへぞ
ぢりもけんまぶ
ぢ了著をわしてやさります。見ぐり目のゝがあり

まもと。今回ゝ婆ぞは休まねべりません。ハイ
一年よいゝ家の花の三月でござりまも。ぶへいろ
さゝな。て了著のゝゝ奴かもど。血をあやゝさべ
社参のけゞも。たもけかゝひやゝかれど。弟度の
婆アゞ出仮よめんゞ命ゝ年りいたもけてムりやゝて
命やうゞかうゞ出やゝ。ゝゝゞ後者家情ゝ乳。呑へムン
あの面をんきゝ。ゝゝ時年ぐりまへいつゝ
ごさゝ。ゝゝたゞアゞ出仮とへなんのゝすごゝゝあん

まりめんもうでおるいいぶそこのちやや柔屋ゞ松ノ尾を
りあとうめへた。出目へムゝそしてけだアさんゞ中氣病ゞ
と狐ノ八松ノ尾ゞ中氣よめんゞと表ゞるへ。惣へイゝサ
めんでもうりちめりうく重あせへ。あもゞ命をあさ
くうふくとうちへ逐あせへアく、新ッこ人まゞ。
ト又立くッて押出出べ仕来繁き陽田境ちちち数美人ミ
ちくれゞ今更しやれあも ちふくなり少ゞくくくられ
呑へめへあり婆アゞナア。そしてあのやろうめへ風
重のいくうゞ。めくとうくちくくて。とふく

まゞめよ仕通ちやアゞりくく。出目へハくくくちやれゞこふ
ゞた拍狂ひとりよめよ重くさう。ちくく仕組ゞくう
ようくちやく出来ゞゼ。ちくゞ書ちこふりりを
しよ書べエ。自狂ゞりくくとんゞりく。呑へくちよ
このひくくいゞりうげゞ深ゞ。見へちよひくさ
美をつけるゞめんやゞ。めんと進出られゞれも
あんまりくやゞ。私へ脇りく一ト陶ゞくまて。
二人りゞ藤の茶屋へくくくいゞ呑ゞ。

琴通舎
英賀
花えんの友の
縄乃まる楷

アバのもろあるよ。きとまろくさせく。ゆろうぐ。ゆ。ねへ。

出目へイヤくそんあるものをいわ。さど。左次さんが又小ろぐ。

それよりのろ。ゆ。松ハどこをとうろうついて居るぐろ。

ゆ。ゆ。出くられバいろ。ちぐ。ゆ。ぐよ。秋

ゆ。ゆ。ゆ。

ここ
この代ひ拾よ　ちゃ　ぐ　ぐ　ぐ

方へろうぜきをなすぶ方。是非なく海りきへあり。
いらしてある。此方も逆恋の果ぜ。呑へ
まい。ろう〳〵是ろう〳〵私たぐろう取おまろう〳〵へけ〳〵く
おぢめまハさせおせぬ。どうぞ此ろう〳〵ぐ。
ト云人聞て驚と縄をとりくれバ勝よつぐるめ引ろう人
こゝを小説呑へナゼ又ろう引つこくぐけろう。の事へあんまり
うのろ〳〵ぐろ〳〵。とゝめ〳〵ぐつろう。
そゝを好の事黄金の沸ぐ〳〵よハツイ聞つく

あるのよ。それよ又親父の伯わが知どくむろうく
ぬへ身をとうけろう。このぐ。たま〳〵ぬと迎ケ出を
受ねへ奥方ろうに出ろく。ろうへイくと
お美婆拙〳〵て。ろう悪ナ男ぢめが。乱ん出
ろうろ仮ぐろ。ぢめ。ぐろいろ見ぐ出
いるて〳〵時いるぐろ。ぐろうれ〳〵ぐ。ろう
けえろ〳〵ぢろ〳〵と婚ろ身ぐとけろうと思ろ。呑へ
ろうと云ぐ〳〵れろこのぐナ。ぐ〳〵ナ。

[illegible]

出目へ[illegible]とのつとりとりくたびまうねへ[illegible]

おつとつく[illegible]さて[illegible]人がつかつかつかつかもうし。

[illegible]ゼのやうでんどりく。ト[illegible]

出目助春七ハ[illegible]引下りのろ松ハ[illegible]

[illegible]へ上りこわがりの上り場へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こわくアだんやさんやく。ト[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぞくぞくしてこれがぐんぐんのぬけく船へヤアこれ骨がぬけて
又ぐんく船はいまのうちぐんぐんと
トもとのうつくしくへ丑、それからぐんぐんョ。そもく
わるくりぬそ
なかとのの前をぬけさいたもくつるめんへくぐねん
ぶくく。トあせりぶ船中ぶそのよをよめく
のろ船を引上げつるくういわみもるアバきをかか
ぶよくもくうるくもる先船へ左へどのろ出き
船入レートを沖へくぐぬそ
性ろ。のろへくんあぐあんじかさんか。なんともねく。
左へあんともねくるもるめん。ぐもよりはど
のん春ぐろ。ぐんぐんぐん丹ぐもやろよう。のろへくんぐもそのん

ぐよくんぐんくんぐもるめん。これ竜と知つくくこと
せうをそのくおもれがよろつく。出目へばくーイく
おあれぐぬるぬでハそのへるアねん。左へそーく
門かねぐぐどりさりる迎で張こせんうかくぐへ
ちつくもぬそねへくくあつぐ。呑へそのろりかくこ
ぬせうハらりよおくくろう。出目へくくもちしぐ一竜
うくんぐ。チト中通りのり込めくが。ぬへ船へ竜
かつくいとくるそ中よ。ナゼのろ船へ濡かろう。

アバ〳〵株式よりうとべ下ぶいかぶ投よ立そそぐバヤシ

ハ〳〵〳〵イソく出来さく。トまたハ大ろうひとりの

どてらの株を釣りう係の釣る長者しの株の

株式を欲しつて泡吹きまい へぞうろう

八笑人二編下冊終